

# 演題 VISION

## ～CREATION OF PERFECT HARMONY～

審美の基準は人それぞれ異なる価値観を持っており、その数は無限である。

多数歯におよぶ審美の確固としたゴールがないために、術者の押しつけになってしまうことがあり自己満足と言わざるを得ない。

審美とは歯科医師、患者と共に真に美しい物を探し求めることが大切だと常に感じている。

では少数歯補綴、シングルセントラルのケースなどはどうであろう。

そこには確固とした審美が存在し、もしその審美にたどり着けないのなら、患者の幸せは訪れないであろう。

我々歯科技工士にとって少数歯補綴は、たとえFunction BiologyそしてStostructureを確立したとしても、審美不良いわゆる天然歯とポーセレンクラウンの色調が合わないという理由だけで再製作となる難しい仕事であることは間違いない。

臨床現場において天然歯色調の再現を実現するためには、画像評価、器械測色評価、理論構築を伴ったシェード選択、これらをシステム化することがシェードミスマッチを飛躍的に減少させ、多様な材料でも正確な色調再現が可能になると考える。なかでも飛躍的に進歩したデジタルカメラにより、画像評価は格段に信頼できるものとなった。その反面、間違った設定のデジタルカメラでの撮影をおこなうと、その信頼度から間違った色調のクラウンを制作してしまう危険性ももっている。

今回は臨床現場で使用するために市販のデジタルカメラを歯科用に設定する方法と、その基礎知識、またそれを活用したセラミック技工を紹介したい。